

2017年度

事業報告書

社会福祉法人 溪仁会

2017年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所部門では、以前から継続して入院者が多く、昨年度よりもさらに入院数が増加。新規入所調整後に1次的には在園数が安定するものの、数日後には新たに入院者が発生するという状況が継続していた。重度者で、かつ健康状悪化のリスクが高い方の入所が増加している中で医療と介護の連携にも改善の余地がある。短期入所については、地域でのニーズの変化に対応して切れていた事やまた、区内での事業所の増加等が要因となり、昨年度比1.9名の減となった。

在宅部門では、通所、訪問介護が関係機関や地域への情報発信を積極的に行い、年間を通じて安定して新規利用者数を維持することができ2事業ともほぼ目標値の達成ができた。居宅介護支援事業では、2016年度の下期で2西区と施設併設の2事業所を当統合。その直後は効率的な運営により若干の改善が見られたものの、2017年度に入り、統合後の業務管理が円滑に行えず、安定した運営には至らなかった。大きな課題を残したままに年度を終了した感がある。

グループホームでは、昨年度末から例年になく入退所件数が多く、上期は不安定であったが年間平均ではほぼ目標値通りの運営となった。

入所・在宅部門双方で共通する課題は、人財と地域ニーズの把握の2点であった。人財は入所、在宅部門での専門職、事務職に関わらず、事業運営に必要な人数の確保だけではなく、個々の職員の資質、業務に求められる高いレベルのスキルをいかに高められるか。また地域ニーズでは、敬樹園ブロックでの事業が関わる全てのステークホルダーのニーズを的確に把握しそのニーズに対し、現行のシステムの改善と適切なサービス提供、評価につなげられるという2点が安定した事業運営への必須事項であり、新年度取組むべき課題と考える。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

2017年度は、前年度の反省点を踏まえて、経営改善のために入所部門での、園長、ケア部長、介護課長、経営管理部課長で構成する業務改善検討会議を原則定例で月1回の開催を実施してきた。内容については、ケア部業務の業務改善、在園率安定のための対応。ICT化、介護ロボットの導入等について検討してきた。特に介護職員の業務見直しとご利用者の健康管理体制については、2018年度も引き続き検討課題として取り組むこととした。

3. 職員状況（3月末現在）

○ 2018年3月31日職員状況

＜西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘＞

- | | | | |
|-------------|-------------------------|------------|-------------|
| ・医 師： | 2名（非常勤） | 看 護 職 員： | 11名（内非常勤3名） |
| ・介 護 職 員： | 80名（内非常勤7名） | 生 活 相 談 員： | 7名 |
| ・介護支援専門員： | 6名 | 介 護 予 防： | 2名 |
| ・作 業 療 法 士： | 2名 | 言 語 聽 覚 士： | 1名 |
| ・理 学 療 法 士： | 1名 | 管 理 栄 養 士： | 1名 |
| ・常勤ヘルパー： | 6名 | 非常勤ヘルパー： | 30名 |
| ・事 務 職 員 他： | 12名 | | |
| ・合 計 職 員 数： | 161名（常勤職員122名、非常勤職員39名） | | |

○ 2017年度職員異動状況（常勤職員）

- ・採用：6名（看護職員：0名、介護職員：6名）
- ・退職：7名（看護職員：1名、介護職員：5名、事務職員他：1名）

4. 研修参加・実施状況

○ 外部研修参加（施設職員参加状況）

- ・敬 樹 園：60回
- ・通 所 介 護：4回
- ・訪 問 介 護：23回
- ・居 宅 介 護 支 援：33回
- ・西 円 山 の 丘：9回

○ 内部研修

- | | | | |
|------------------|----------------|-----------------|----|
| ・入 所：事故防止 | 2回、感染予防 | 2回、抑制廃止/高齢者虐待防止 | 1回 |
| 褥瘡予防 | 1回、緊急災害 | 1回 | |
| ・そ の 他：新人職員研修 | 1回、食事ケアと口腔ケア | 1回、理念の浸透 | 1回 |
| 個人衛生 | 1回、施設サービス計画 | 1回、セルフケア | 1回 |
| 看取り研修 | 2回 | | |
| ・敬 樹 園：19回 | ・通 所 介 護：17回 | ・訪 問 介 護（敬）：11回 | |
| ・居 宅 介 護 支 援：13回 | ・西 円 山 の 丘：11回 | | |

2017年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|--------------|---------|
| 延入所者数 | 43,800人 | 42,220人 |
| 一日平均入所者数 | 120.0人 | 115.7人 |
| 入所待機者 | 129人 (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 3.82 | |
| 協力医療機関 : | 1. 札幌西円山病院 | |

【短期入所生活介護：定員14名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------------|--------|
| 延入所者数 | 3,464人 | 2,687人 |
| 一日平均入所者数 | 9.5人 | 7.3人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.7 (要支援1・2を除く) | |

【通所介護：一般型30名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------------|--------|
| 延利用者数 | 5,911人 | 5,936人 |
| 一日平均利用者数 | 23.0人 | 23.1人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.1 (要支援1・2を除く) | |

【訪問介護】

目 標

実 績

延派遣回数 (介護保険) 12, 530 回 10, 615 回
(介護保険外) 6, 313 回

一日平均利用回数 (介護保険) 34.3 回 29.1 回

要介護度状況 : 平均要介護度 2.1 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

目 標

実 績

延作成件数 2, 196 件 2, 051 件
(うち介護予防) 343 件

要介護度状況 : 平均要介護度 1.98 (要支援1・2を除く)

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 87 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：4 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：77 件 その他：7 件

介護予防啓発普及事業実施件数

| | 実施回数 | 参加者数 |
|--------|--------------|--------------|
| 介護予防教室 | <u>166</u> 回 | <u>180</u> 人 |

(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)

| | | | | | |
|----------|--------------|-------------|--------------|--------|-------------|
| 転倒予防 | <u>147</u> 回 | 栄養改善 | <u>2</u> 回 | 口腔機能向上 | <u>46</u> 回 |
| 閉じこもり予防 | <u>7</u> 回 | 認知症予防 | <u>143</u> 回 | 疾病予防 | <u>9</u> 回 |
| その他の介護予防 | <u>14</u> 回 | (体力測定・血圧測定) | | | |

| | | |
|---------|-------------|--------------|
| 研修会・講演会 | <u>8</u> 回 | <u>232</u> 人 |
| その他 | <u>22</u> 回 | <u>416</u> 人 |

(曙・幌西)

延相談件数 77 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：9 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：57 件 その他：16 件

介護予防啓発普及事業実施件数

| | 実施回数 | 参加者数 |
|--------|-------------|----------------|
| 介護予防教室 | <u>69</u> 回 | <u>1,608</u> 人 |

(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)

| | | | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|
| 転倒予防 | <u>48</u> 回 | 栄養改善 | <u>3</u> 回 | 口腔機能向上 | <u>18</u> 回 |
| 閉じこもり予防 | <u>6</u> 回 | 認知症予防 | <u>47</u> 回 | 疾病予防 | <u>4</u> 回 |
| その他の介護予防 | <u>2</u> 回 | (体力測定) | | | |

| | | |
|---------|-------------|--------------|
| 研修会・講演会 | <u>10</u> 回 | <u>107</u> 人 |
| その他 | <u>18</u> 回 | <u>756</u> 人 |

2017年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|--------------|----------|
| 延入所者数 | 9, 740 人 | 9, 484 人 |
| 一日平均入所者数 | 26. 7 人 | 25. 9 人 |
| 入所待機者 | 6 人 (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2. 38 | |
| 協力医療機関 : | 1. 札幌西円山病院 | |

2017年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

開設後6年が経過した2017年度は、施設内ガバナンス体制の再構築を念頭におき、「仕事をやりやすくする」「施設としての身だしなみを整える」を柱として、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）の取り組みと「利用者」「職員」「地域」「経営」の4つの満足度向上を目指す初年度といたしました。既存の委員会とは別組織「あさがおセカンド」委員会として構成し、目的や取り組みの必要性についての周知活動を含め、取り組み項目の検討と選定にあたり、職員に対しアンケート調査を実施いたしました。2018年度は当該アンケート結果と併せて、利用者アンケートからのご意見・ご要望を踏まえ、より良い施設づくりを目指すべく実行の1年目とします。

人財確保対策の一環として、介護職員の専門性がより必要とされる業務（直接業務）と付帯的な業務（間接業務）を整理・区分けし、間接業務において元気な高齢者や地域の方に担っていただくことを趣旨とした「地域人材を活用した労働環境改善促進事業」を北海道より受託しました。3ヶ月間の雇用契約を前提とした非常勤職員（介護アシスタント）12名を採用し、介護職員においては直接業務への専念による仕事の能率とモチベーションの向上、介護アシスタントの方にはやりがいや生きがいに繋がったものと思われ、相乗効果が図られました。当該事業の実施を通じて、各種団体での発表機会が設けられたことやメディアにおいて取り上げられたことにより、当該事業の普及啓発はもとより介護事業のイメージアップへの一翼を担えたものと感じております。当該受託事業においては単年度にて終了となりますが今後も継続して推進して参ります。

地域における公益的な取り組みの一環として、通所事業所において「生活困窮者就労訓練事業」の認定を受けました。今後は入所事業での認定も検討し、一般就労に向けて更なる継続支援を行って参ります。

経営面については、特に入居者の重度化等による病症状の不安定さが顕著となり大変厳しい結果となりました。生活機能向上やアウトカム評価等といった今年度の介護報酬改訂趣旨の理解を深めていくと同時に、新たな加算項目の取得に向けて着実に対応して参ります。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○毎月1回 施設運営会議において毎月の経営状況における課題等について協議・検討を実施

○参加者： 施設長、施設ケア部長 他 各部署責任者

○内 容： 毎月における各事業の目標収益・支出（人件費・事業費・事務費）・一日平均利用者数の達成状況確認と検証、
加算算定状況の確認、平均要介護度の推移、人件費率及び利益率、新規加算算定取得に向けた目標数値の達成度確認など

<成 果>

○当施設経営状況の実態や居宅サービス（通所・短期）利用者の動向についての共通認識が図られた。

○通所における要介護利用者比率の底上げ意識の醸成と利用キャンセルに伴う振替利用の徹底が図られた。

○通所利用者によるショートステイへの併用利用の円滑な受け入れに向けた協議を行った。

<今後の展開>

○上記取り組みの継続強化と新たな加算の算定に向けた協議並びに施設内における入所受入判定基準の広範化に努める。

○経営面に限ることなく、各部門間における課題解決に向けた協議・検討を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況【合計職員数101名】

特養・短期：管理者1名、医師2名（非常勤）、看護職員8名（内非常勤1名）、介護職員51名（内非常勤9名）、

介護アシスタント9名（非常勤）、生活相談員2名、介護支援専門員2名、理学療法士2名、栄養士（管理栄養士含む）3名、

事務職員3名 ※育児休業取得者5名（看護職員1名、介護職員3名、管理栄養士1名）、育児短時間勤務取得者5名

通所介護：管理者1名、生活相談員2名（介護職員兼務）、介護職員8名（内非常勤3名）、看護職員3名（内非常勤1名）

○2017年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：27名【看護職員5名（内転入1名）、介護職員21名（内通所介護2名・介護アシスタント12名）、理学療法士1名

退職：27名【看護職員5名、介護職員20名（内通所4名・介護アシスタント5名）】施設外異動者2名（管理栄養士・介護職員）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（法人本部・渓仁会グループ内研修含む）

ユニットリーダー研修、認知症介護実践リーダー研修、ボランティア受入担当者研修、日本褥瘡学会北海道地方会学術集会、

老人福祉施設長研究セミナー、道社協主催研修 他 その他法人本部・渓仁会グループ主催研修 延224名参加

○内部研修実施状況

虐待防止研修（講師：第3包括）、接遇研修（講師：札幌西円山病院肥後課長代理）、「つながる医療を考える」（於：定山渓病院）、

その他 感染予防（ノロウイルス・インフルエンザ）、身体拘束・虐待防止・褥瘡予防研修 等 実施

○その他～日本褥瘡学会北海道地方会学術集会、渓仁会グループ研究発表会（3演題）、高齢者雇用促進セミナー 発表

その他近隣町内会での講話や転倒予防教室などの講師として参加

2017年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

目 標

実 績

延入所者数 29,200人 27,949人

一日平均入所者数 80.0人 76.6人

入所待機者 95人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 3.8

協力医療機関 : 1. ごとう内科クリニック

2. 定山渓病院

3. 札幌歯科口腔外科クリニック

4. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり

【短期入所生活介護：定員8名】

目 標

実 績

延入所者数 1,281人 1,348人

一日平均入所者数 3.5人 3.7人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く)

【通所介護：一般型 45名】

目 標

実 績

延利用者数 9,380人 9,223人

一日平均利用者数 36.5人 35.9人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.5 (要支援1・2を除く)

2017年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

入居・ショートともに目標の稼働率を達成できない事が多かったが、その分、給食費が抑えられた。また、全体で支出を抑える取り組みを行った結果、収支状況においては、人件費率及び利益率とも、ほぼ目標を達成した。

職員確保においては、看護職員・管理栄養士・相談員などの有資格者については欠員なく推移したが、年度末に介護職員・看護職員ともに退職者が続いた。介護職員の採用を急務として行い、現在、介護職員については、ある程度採用できたが、看護職員については、人員基準は満たしているが、2018年度の体制加算の算定にも影響がある為、補充を急いでいる。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

○2017年度の下記計画を確認した。

1. コミュニティホーム岩内の待機者が当施設のショートステイを利用して頂く連携
2. 全職員参加型の教育（研修）の定例実施
3. 岩内コミュニティの丘の各施設・事業所との連携（コミ丘運営会議）

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

施設長： 1名

医師： 1名（嘱託）

栄養士： 1名

介護職員： 26名

看護職員： 4名

事務職員： 1名

相談職員： 4名

介護補助： 5名

合計： 47名

○定期業務委託：給食・清掃洗濯・浄化槽管理

4. 研修参加・実施状況

○施設内研修（全職員参加）

- 4月 ・記録記載の研修
- 5月 ・AED研修
- 6月 ・腰痛予防研修
- 7月 ・事故発生防止研修
- 8月 ・防災研修・排泄研修
- 9月 ・看取り研修
- 10月 ・アンガーマネジメント研修（全職員対象の施設外研修）
- 11月 ・リスクマネージメント・感染予防
- 12月 ・感染予防研修
- 1月 ・認知症介護実践研修
- 2月 ・防災研修・虐待研修
- 3月 ・介護報酬の改定について

2017年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|---------------------------------|------------------|
| 延入所人数 | <u>18, 300 人</u> | <u>18, 225 人</u> |
| 一日平均入所者数 | <u>50.0 人</u> | <u>49.9 人</u> |
| 入所待機者 | <u>3 人 (3月末現在)</u> | |
| 要介護度状況 : | <u>平均要介護度 3.8</u> | |
| 協力医療機関 : | <u>1. 指定管理者 医療法人渓仁会 泊村茅沼診療所</u> | |
| | <u>2. 岩内協会病院</u> | |
| | <u>3. にしざき歯科医院</u> | |

【短期入所生活介護：定員10名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|--------------------------------|-----------------|
| 延入所者数 | <u>2, 928 人</u> | <u>2, 646 人</u> |
| 一日平均入所者数 | <u>8.0 人</u> | <u>7.2 人</u> |
| 要介護度状況 : | <u>平均要介護度 2.75 (要支援1・2を除く)</u> | |

2017年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

今期は介護職員の離職に伴う補充ができず、法人内の施設より研修派遣という形で応援を仰ぐ結果となり、新規入居の受入れを制限せざるを得ない状況もあり、収支については目標と大きな差異が出る結果となった。今後もさらに厳しい状況は継続するが、業務委託やスポット就労等の活用、本部及び法人内各施設との連携、さらには外国人技能実習生の受入れ等により打開策を見つけていきたい。又、在宅部門においては、居宅介護支援事業所の開設（2017年1月）により、訪問介護等の在宅サービス利用者も増加傾向であり、又、今期より短期入所の受入れも開始したことから、次年度においても各事業所間の連携を強化し、在宅サービスの利用者増を目指す。さらに、次年度においては訪問介護及び通所介護においては総合事業への完全移行を受け、より行政等との連携強化が重要となってくる。人財不足の中にあっても前向きに課題を取り組み、サービスの質を向上させるチャレンジを継続しつつ、地域ニーズも考慮した将来的な展望を視野に、柔軟な発想で今後の方向性についても検討が必要となる。今後も中長期的な視野で、施設運営の基盤固めと、ICT等を活用した業務の効率化、外国人も含めた人財確保策の推進、更には介護報酬改定に伴う加算取得等の課題にも積極的に取り組んでいきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・毎月第3水曜日(16:30~)開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務と改善

- ・経過記録等のPC入力（LM-WINCARAへの移行、タブレット活用の検討等）
- ・効率的な勤務シフト及び部署間連携の検討
- ・スポット就労及び業務委託の検討
- ・入居者のユニット異動に伴う検討等

2) 各種加算の算定（両施設）

- ・「日常生活継続支援加算」算定。
- ・「認知症専門ケア加算Ⅰ」算定。
- ・看取り介護加算（喜2名、留2名）算定。
- ・今後も、「認知症専門ケア加算Ⅰ」の継続取得に向け、「認知症実践者研修」及び「認知症実践リーダー研修」への積極的な研修参加を支援していく。
- ・2018年度（新規）加算取得として、「配置医師緊急時対応加算」、「看取り介護加算Ⅱ」、「褥瘡マネジメント加算」、「生活機能向上連携加算」、「特定事業所加算Ⅱ（訪問介護）」の他、通所介護のサービス提供時間を5時間-7時間から6時間-7時間へ変更。

3) 費用等の見直し

- ・2018年度は、配管等の経年劣化に伴う、「るすつデイサービスセンター」の光熱水費削減への取り組みが課題。

4) その他

- ・人財確保策として、外国人技能実習生の受け入れや職員確保のための更なる住宅等の体制の整備を実施予定。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況 総職員数 85名（喜茂別55名、留寿都30名）

非常勤医師2名、看護職員9名（内非常勤職員3名）、介護職員61名（内非常勤職員8名、派遣職員4名）、生活相談員兼介護支援専門員4名、管理者兼生活相談員1名、管理栄養士2名、訪問介護員3名、事務職員6名（内非常勤職員1名）

○2017年度職員異動状況

採用12名【介護職員11名（内新卒0名、派遣職員4名、非常勤職員2名）、看護職員1名】

退職22名【介護職員19名（内非常勤職員1名、派遣職員2名）、看護職員2名、事務職員1名】

異動 転入4名【新琴似、豊平、白石、手稲】 転出0名

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：23回、延652名参加

看取りケア、リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇、心肺蘇生・AED等

○外部研修参加回数：喜茂別56研修に延91名、留寿都25研修に延33名参加

認知症介護実践者研修、介護職員実務者研修、全道老人福祉施設研究大会、技能実習責任者講習、技能実習指導員講習、後志者施設研修、渓仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会作っていく。

2017年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員 80名】

目 標

実 績

延入所者数 28, 470 人 26, 569 人

一日平均入所者数 78.0 人 72.8 人

入所待機者 5 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 3.70

協力医療機関 : 1. 喜茂別町立クリニック

2. 定山渓病院

3. 洞爺温泉病院

4. 喜茂別歯科

5. ふじ歯科クリニック

【訪問介護】

目 標

実 績

延派遣回数 (介護保険) 490回 278 回

(介護予防) 210 回

(総合事業) 199 回

(障がい) 246 回

(制度外) 6 回

一日平均利用回数 (介護保険) 2.0 回 2.0 回

要介護度状況 : 平均要介護度 1.93 (要支援1・2を除く)

2017年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|-------------|-----------|
| 延入所者数 | 10, 406 人 | 10, 180 人 |
| 一日平均入所者数 | 28.5 人 | 27.9 人 |
| 入所待機者 | 1 人 (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 3.25 | |
| 協力医療機関 : | 1. 留寿都診療所 | |
| | 2. 定山渓病院 | |
| | 3. 洞爺温泉病院 | |
| | 4. 留寿都歯科診療所 | |

【通所介護：地域密着型10名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------------|----------|
| 延入所者数 | 1, 691 人 | 1, 457 人 |
| 一日平均利用者数 | 6.90 人 | 5.94 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く) | |

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|-------------------|------------------------|---------------|
| 延作成件数 (うち介護予防) | 420 件 | 536 件 12 件 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く) | |

2017年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

○2017年度の総括

開設から4年目を迎えた「手稲つむぎの杜」は、7事業を展開する介護・福祉の総合施設として、「経営基盤の安定化と挑戦の具現化」を目標に全職員体制で事業運営に取組んだ。

その結果、一部在宅事業で苦戦を強いられるも、各事業が連携・協力した結果、施設全体としての事業実績は年度を通して順調に推移した。挑戦の具現化という点においては、手稲区内での済仁会グループに期待される使命を踏まえ、新たなる事業の検討を開始し、また、北海道介護ロボット普及推進センターの指定をうけ、幅広く自治体・介護保険事業所等の視察・見学の受入や専門学校等に出向いてのロボットの使用体験等、介護の魅力を発信するとともに当施設を対外的にアピールすることができた一年であったと評価する。これらのことから、総じて2017年度の目標は達成されたものと考えている。

○今後の展開

介護職員を含めた専門職の確保が一層厳しさを増す現状から、効果的な職員の離職防止対策や働き手が減少する中での業務の見直し等「働き方改革」を推進することが喫緊の課題となっており、それらを踏まえ2018年度施設運営方針の各項目を着実に取組んで行くことをとする。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議（原則毎月第3金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

入所：年間新規20名、稼働率98.8%、入居者の重度化により年間を通じ退居者が多かったものの（看取り14名、入院退居6名）、スムーズな入退居調整により安定的なベッドコントロールができた。年間空床数346日。

短期：年間新規56名、稼働率78.4%、手稲区内居宅介護支援事業所を中心に安定的に利用者を紹介頂き、目標Ave並びに延利使用者数ともに予算達成。通所並びに認知通所利用者のレスパイト利用も多く、事業所間の連携も図れた。

通所：年間新規47名、稼働率83.5%、新規利用者の積極的な受入により高い稼働率維持するも登録利用者の長期入院等により予算延利用者数未達。新規受入による要介護比率上昇・加算取得により単価においては上昇、収益予算は達成。

認知：年間新規13名、稼働率72.5%、利用者の重度化に伴う施設入居・死亡等が相次ぎ、目標Ave並びに延利用者・収益ともに予算に届かず。年度後半より新規利用者積極受入によりAve回復見られるも、単価低下が今後の課題。

居宅：年間新規54名、年度途中、介護支援専門員1名退職による欠員で新規受入を一部制限したこともあり、延利用者数・収益ともに予算に届かず。施設内各事業所とのスムーズな連携により、各事業所の利用者増に大きく貢献。事業損益においては黒字確保。

予防：すこやか俱楽部等予防事業の参加者も増加。地域との連携、施設ギャラリースペースへの展示等、施設運営にも大きく貢献。

障がい：下期相談支援専門員1名法人内異動により欠員生じるも、委託・計画相談とともに安定的に推移。事業損益においても黒字化。

○各種加算の算定

入所においては「日常生活継続支援加算（Ⅱ）」、短期・通所・認知通所においては「サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ」を継続算定。その他、入所においては、療養食加算、経口維持加算、看取り加算等、通所においては、個別機能訓練加算（Ⅱ）等の算定により、単価維持・上昇に努めた。

○水道光熱費及び費用の見直し

水道光熱費は単価の上昇等の影響もあり前年度比+1,459千円と費用増加も、使用量においては各部署協力のもと主要4種全てにおいて削減（前年度比ガス▲5.8%、電気▲1.3%、融雪電力▲4.9%、水道▲3.2%）が図れた。また、固定電話・携帯電話のキャリア変更や保守料の見直し等を実施し、費用削減に努めた。

○2018年度に向けて

介護報酬改定の年度でもあり、取得可能加算の積極取得と併せ、業務整理も進め、最小の費用で最大の効果を生むことができるよう一層の経営改善に努める。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日現在 職員状況 <入所・短期・通所・認知通所・居宅・予防・障がい> 合計126名（内非常勤28名）

入所・短期：管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員5名、介護職員56名（内非常勤8名、派遣4名）、介護支援専門員2名

理学療法士1名、管理栄養士1名、生活相談員2名、事務職員4名 ·計73名

通所・認知：管理者2名、看護職員5名（内非常勤3名）、介護職員32名（内非常勤13名、派遣1名）、作業療法士1名、

運転職員3名（非常勤） ·計43名

居宅・予防：管理者2名、介護支援専門員4名 ·計6名

障がい：管理者1名、相談支援専門員3名 ·計4名

○2017年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

採用：12名【介護職員11名（入所6名、通所5名）、理学療法士1名（入所）】

退職：19名【看護職員2名（入所1名、通所1名）、介護職員15名（入所8名、通所7名）、理学療法士1名（入所）、

介護支援専門員1名（居宅）】

異動：2名【介護職員1名（入所）喜茂別へ、相談支援専門員1名（障がい）カームヒルへ】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（済仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む）※参加回数105回、延307名参加

ユニットリーダー研修、認知症介護実践者・実践リーダー・指導者研修、老人福祉施設研究発表会、グループ研究発表会、主任介護支援専門員研修、共生型地域福祉拠点セミナー、中堅管理職講座、中堅選抜者研修、目標管理研修会、認知症支援研修 他

○内部研修実施状況 ※開催回数27回、延436名参加

感染対策研修、虐待防止研修、事故防止研修、褥瘡予防研修、CSRビデオ研修、認知症研修、ユニットケア研修、疾患別認知症ケアと地域包括ケアシステム研修、事例検討会、高齢者の低栄養と配食について 他

2017年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|-----------------------|------------------|
| 延入所者数 | <u>28, 835</u> 人 | <u>28, 854</u> 人 |
| 一日平均入所者数 | <u>79.0</u> 人 | <u>79.1</u> 人 |
| 入所待機者 | <u>164</u> 人 (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 <u>4.18</u> | |
| 協力医療機関 : | <u>1. 手稲渓仁会病院</u> | |
| | <u>2. 手稲家庭医療クリニック</u> | |
| | <u>3. 安永歯科</u> | |
| | <u>4.</u> | |

【短期入所生活介護：定員10名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|--------------------------------|-----------------|
| 延入所者数 | <u>2, 738</u> 人 | <u>2, 861</u> 人 |
| 一日平均入所者数 | <u>7.5</u> 人 | <u>7.8</u> 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 <u>2.47</u> (要支援1・2を除く) | |

【通所介護：一般型 65名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|-------------------------|----------|
| 延利用者数 | 17,360 人 | 16,874 人 |
| 一日平均利用者数 | 56.0 人 | 54.3 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 1.55 (要支援1・2を除く) | |

【通所介護：認知症対応型 12名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|-------------------------|---------|
| 延利用者数 | 2,957 人 | 2,709 人 |
| 一日平均利用者数 | 9.5 人 | 8.7 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.26 (要支援1・2を除く) | |

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|-------------------|-------------------------|-----------------|
| 延作成件数 (うち介護予防) | 1,860 件 | 1,611 件 13 件 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 1.78 (要支援1・2を除く) | |

【介護予防センター】

(まえだ)

延相談件数 55 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：17 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：24 件 その他：38 件

介護予防啓発普及事業実施件数

| | 実施回数 | 参加者数 |
|---------|-------------|-----------------|
| すこやか倶楽部 | <u>57</u> 回 | <u>1, 331</u> 人 |
| 介護予防教室 | <u>0</u> 回 | <u>0</u> 人 |
| 転倒予防教室 | <u>0</u> 回 | <u>0</u> 人 |
| 認知症予防教室 | <u>0</u> 回 | <u>0</u> 人 |
| 研修会・講演会 | <u>0</u> 回 | <u>0</u> 人 |
| その他 | <u>2</u> 回 | <u>41</u> 人 |

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

| | | | | | |
|---------|------------------|-------|--------|---------|------------------|
| 新規登録者 | 90名 | 登録抹消者 | 65名 | 年度末登録者数 | <u>320名</u> |
| (地区別) | 中央区 | 1名 | 北 区 | 5名 | 清田区 1名 南区 1名 |
| | 西 区 | 9名 | 手稲区 | 302名 | 市外 1名 |
| (障がい種別) | 身 体 | 60名 | 重 心 | 12名 | 知 的 112名 精 神 62名 |
| | 発 達 | 44名 | 高次脳 | 4名 | 難 病 3名 その他 22名 |
| (児・者別) | 障がい児 | 74名 | 障がい者 | 246名 | |
| 支援方法 | 訪問 | 995件 | 来 所 | 239件 | 同 行 263件 |
| | 電話 | 829件 | ケア会議 | 232件 | 関係機関 1, 638件 |
| | メール | 60件 | その他 | 66件 | 連絡・調整 958件 |
| | 登録外相談 | 608件 | | 合計 | <u>5, 888件</u> |
| 支援分類 | 福祉サービスの利用に関する支援 | | 2, 780 | 件 | |
| | 障がいや病状の理解に関する支援 | | 40 | 件 | |
| | 健康・医療に関する支援 | | 387 | 件 | |
| | 不安の解消・情緒安定に関する支援 | | 138 | 件 | |
| | 保育・教育に関する支援 | | 17 | 件 | |
| | 家族関係・人間関係に関する支援 | | 151 | 件 | |
| | 家計、経済に関する支援 | | 251 | 件 | |
| | 生活技術に関する支援 | | 189 | 件 | |
| | 就労に関する支援 | | 315 | 件 | |
| | 社会参加・余暇活動に関する支援 | | 16 | 件 | |
| | 権利擁護に関する支援 | | 15 | 件 | |
| | 連絡・調整 | | 958 | 件 | |

◇指定相談支援事業（サービス等利用計画）

| | | | |
|---------------|-----|---|-------------|
| <u>新規計画</u> | 40 | 件 | (内年度内終了者2件) |
| <u>モニタリング</u> | 298 | 件 | |

2017年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養に関しては、昨年同様平均介護度（4.48）が高く、医療ニーズの高い入居者が多く居室コントロールに時間が掛かったが、ある程度、目標に近い実績まで上げる事が出来た。（一日平均入居者数：2016年度：27.9名 2017年度：28.2名）また、小規模多機能型居宅介護は、特養同様に利用者の出入りが頻回であったが、定期的に他事業所や病院等に営業活動実施し実績として平均登録者数28.8名を維持することができた。共用デイは、登録者2名までしか至らなかった。また、2名とも年度途中で休止（体調不良）してしまったことから、更なる認知症高齢者の受け皿として他事業所等に営業活動等でアピールして登録が増加するよう努力していきたい。結果的には特養、小規模多機能型居宅介護とも平均介護度・稼働率が上がり収益増につながった。

事故（17件）・苦情（4件）に関して、事故については圧倒的に誤薬事故件数が多かった。重大な事故に繋がったケースは無いが個々の事故評価をしっかりと実施し、同様の事故件数を無くすように対応していきたい。ご利用者やご家族からの苦情は④件あった。多くはサービス内容の説明不足が原因であった。常に全職員がご利用者やご家族に詳細説明を実践し信頼をいただく様努めていきたい。

施設内外研修に関しても計画通りに実施・参加できた事は評価できる。最後になるが、職員（特に介護職員）の退職は少なく業務に影響することはなかった。しかし、人員確保が厳しい状況であることは、今後の大きな課題であると考える。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞：毎年第3月曜日（17：30～）開催

- 1) 各事業所の稼働率向上について。特に共用型デイサービスについての登録増のための活動
- 2) 職員募集・新人介護職員教育等について（離職防止も含め）
- 3) 兼任可能施設職員の在り方について
- 4) その他

＜成果＞

- 1) 最低月1回、他事業所にあいさつまわりを実施。特に共用デイは専用パンフレットを作成して営業実施したが登録増には至らなかった。小規模に関しては白石区第3包括支援センターから定期的な紹介等もあり稼働率アップに繋がった。
- 2) 定期的にマニュアルを見直して、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。
- 3) 地域密着サービスの特徴をしっかりと活かし、各職種（介護福祉士・介護支援専門員）の常勤換算等条件を満たしながら、特養・小規模多機能型居宅介護、そして共用型デイ同一敷地内での兼務可能な職員を多くして、より効率的にシフト調整ができるようになった。
- 4) 浴室改修工事に伴い入浴時間についてはある程度、利用者の希望に添った時間にて提供ができた。今後もゴールデンプラン（個別ケア）を充実させていきたい。

＜今後の展開＞

共用デイを中心とした在宅サービスの充実を図っていきたい。また、小規模多機能型居宅介護サービスのサテライト化も視野に入れた活動を実施。入居に関しては中重度要介護者・認知症高齢者の受入が基本となる。そのためにも専門性の向上と業務の効率化を図っていきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

医師1名（非常勤）、看護職員4名、介護職員34名（内派遣7名）、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員1名、事務職員他2名、合計44名（派遣7名 育児休業1名）

○2017年度職員異動状況

採用14名【介護職員12名（常勤2名、契約2名、派遣8名）・事務職員2名（常勤1名、異動1名）】

退職 9名【介護職員 7名（常勤2名、派遣5名、障害2名）・事務職員2名（常勤1名、異動1名）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：10回、延208名参加

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、腰痛防止、学習療法、看取りケア、他施設見学、等 外部講師3回依頼

○外部研修実施回数：34回、延43名参加

介護初任者研修、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修、介護ロボット導入活用研修会、技能実習責任者講習、

特養看護と介護の連携協働研修、学習療法研修、リスクマネジメント研修、認知症ケアスキルアップ研修、札幌市・北海道老人福祉施設協議会、ストレスチェック対策セミナー、相談職研修、施設長研究セミナー その他

○2018年度も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修（全職員参加）参加の機会を作っていく。特に、内部研修ではグループ等の協力を得て外部講師を多く依頼しての研修を実施していきたい。

2017年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

目 標

実 績

延入所者数 10, 404 人 10, 291 人

一日平均入所者数 28.5 人 28.2 人

入所待機者 62 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 4.48

協力医療機関 : 1. 広川内科クリニック
2. 白石中央病院
3. 札幌歯科口腔外科クリニック
4.
5.

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

目 標

実 績

延登録者数 10, 223 人 10, 500 人

※延通い利用者数 4, 996 人

※延宿泊数 3, 140 人

※延訪問数 1, 859 人

一日平均登録者数 28.0 人 28.8 人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.32 (要支援1・2を除く)

【通所介護：認知症対応型 3 名】

目 標

実 績

延利用者数 _____ 200 人 _____ 60 人

一日平均利用者数 _____ 1.0 人 _____ 0.3 人

要介護度状況 : 平均要介護度 3.0 (要支援 1・2 を除く)

2017年度 事業報告

施設名：カームヒル西円山

1. 総括

2017年度は、特定入居者生活介護の入居者様の入院、退所等はあったもののアベレージは目標値を超える数を残すことができました。平均介護度が少し下がったが、経常収益は予算より上回る結果となりました。又、事業費、事務費等の支出もほぼ予算通りに経過し、現時点で決算の結果まだだが、経常利益は予算値より上回る格好になりそうです。介職職員は、通年を通して退職もなく安定して推移しました。運営方針でもある「人としての組織づくり」を昨年度に引き継ぎ構築することが出来ました。「人を大切に」を役職者が先頭に自覚し業務を遂行しながら、職員は2017年度も研修に参加させて頂きケアの質の向上を図ることができました。今後も職員が健康で就労できてワークバランスを尊重しながら継続していきます。

入居者様に関しては、感染に関する事、事故防止に関する事を入居者向けに講師を招き学習会を実施することができました。特定入居者様の個別目標に基づく支援もレクリエーション等を含め取組ることができました。一般入居者様には、年間を通じ行事を通じご家族との交流を図りました。また、2016年度から「そのひとらしい暮らしを目指して」をテーマに継続し一般入居者の支援を手掛けることが出来ました。2018年度も継続し「そのひとらしい暮らし」ができるよう支援していきます。

地域活動の計画は、時期と年度目標を掲げていて町内会の行事等の参加、ケアハウスのPRは出来たが、敬樹園ブロックの中での施設単独での活動ができないまま年度を終了する結果となりました。2018年度は、再度地域における公益的活動の取り組みを検討し具体的な活動に着手していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

経営改善のために、月1回の「役職者会議」において一般・特定の在籍数と、予算月毎の経費執行について協議すると共に、「職員会議」にて毎月、半期毎の実績報告を行いました。年度予算を全職員に意識しながら業務に取り組めるように適宜収支状態の報告を行うことが出来ました。又、新たに「事例検討会議」を適宜に実施し施設としての入居者様の処遇の対応の見解を討議しました。その他、施設老朽化の為外壁の改修、4階廊下の壁紙の張替を実施しました。

<成果>

役職者会議での決定事項を職員会議でさらに検討しながら決定事項の周知徹底ができました。更に「事例検討会議」では早期対応が可能になり、入居者の住み替え等の対応で役割分担が出来、迅速かつ施設としての方向性が明確になりました。業務改善に関しては相談職員を含む経営管理課も介護のルーチン業務を「全員介護」で携わり介護職のモチベーションも保たれて業務が遂行されました。

<今後の展開>

2017年度は、財務の視点で安定した人材確保が出来ました。しかし、退職者がでれば介護職員の新規採用は困難で介護報酬の請求を制限され収入減少の1要因となりかねます。現職員の退職希望はありませんが、退職者がでればすぐに経営基盤が崩れてしまう為、今後も先を見越した介護職員をはじめとする人材確保を念頭に置き経営改善に取り組んでいきます。グループ唯一のケアハウスの運営を堅実な経営が出来るように取組んで行きます。

2017年度は、外壁工事を終えましたが、施設設備の永年劣化等による修繕が必要と予想されます。安全面を重視しながら修繕、備品の管理を徹底します。経営品質向上を図るために、待機者の管理、健康管理を徹底し在籍者数の目標アベレージを保って行きます。今年度も入居者様には、敬愛の念を強く持ち顧客満足向上を目指します。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

看護職員：3名、介護職員：13名、相談員：2名、事務職員他：2名、合計：20名

○2017年度職員採用・退職等状況

退職⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

採用⇒看護職員：1名、介護職員：0名、相談員：0名

異動⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：1名

4. 研修参加・実施状況

○参加：27回 参加者：延べ58名

外部研修：全国軽費老人ホーム協議会、札幌老施協生活相談員研究会、あいおいニッセイ同和、
全軽協北海道ブロック等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

2017年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

| | 目 標 | 実 績 |
|--------------------|-----------------|------------------------------------|
| 延入所者数 (うち特定入居者) | <u>36,500</u> 人 | <u>35,909</u> 人 <u>15,236</u> 人 |

| | | |
|-----------------------|--------------|--------------------------------|
| 一日平均入所者数 (うち特定入居者) | <u>100</u> 人 | <u>98.3</u> 人 <u>41.7</u> 人 |
|-----------------------|--------------|--------------------------------|

入所待機者（3月末現在）個人：98 人 夫婦：21 人 うち特定：44 人
(要支援1・2を含む)

要介護度状況 : 平均要介護度 1.0 (要支援1・2を含む)

協力医療機関 : 1. 札幌西円山病院

2.

3.

2017年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石・白石の郷

1. 総括

2017年度は老人保健施設入所者が延63名在宅復帰されました。2016年度に初めて年間50名を超えたが（51名）、さらに在宅復帰者数を12名も増やすことができたのは全職員が白石の役割や目標を理解し、目標達成に向かって連携した結果だと思います。

2018年度は介護報酬改定により老人保健施設にはこれまで以上に「在宅復帰、在宅療養支援機能」が求められました。当施設は「在宅強化型」として4月をスタートすることができましたが、これを維持し、さらに「超強化型」を目指すことが老人保健施設としての役割を果し経営的にも安定化を図る方策と考えています。

内部プロセスの面では、老人保健施設サービスに係る「入所ミーティング」、在宅サービスに係る「在宅ミーティング」、職員間の連携向上を目指す「コミトーグ」など部署や職種を越えたコミュニケーションの機会を設けています。

また、職員採用が厳しいなか、離職を防止し安心して働ける職場作りが最重要課題と考えます。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

開催日：毎月1回、運営会議開催週の月曜日に定期開催。

参加者：施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課長、施設管理課長の7名。

内 容：利用状況（老健入所、通所）の確認、在宅復帰加算要件の確認（在宅復帰率、ベッド回転率）、新規加算の算定に向けた検討、BSCアクションプラン実施に向けた検討、その他運営上の課題について協議。

<成 果>

- 老人保健施設は1年間を通して在宅復帰率を維持し、「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定することができた。
- 老人保健施設入所及び各在宅サービスが加算算定に努めた結果、平均単価向上に繋がった。
- 2017年度BSCで目標とした「業務改善の実行」に取組み、成果として全部署参加によるポスター発表を開催することができた。各部署が取組んだ17題の発表を1か月間リハビリ室に掲示し来訪者にも公開した。
- 老健3階301号室を居室から多目的スペースへの用途変更を行ない、課題だった食堂スペースの狭さが解消されて療養環境が向上した。
- 札幌市認知症カフェとして、「レモンカフェコミ白」を毎月開催することができた。

<今後の展開>

経営改善プロジェクト会議は白石ブロックのBSC作成や課題の整理など運営上の中心的な役割を担っており、今後においても重要な協議の場として継続します。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

医師1名、看護職員17名、介護職員93名、相談職員31名、介護支援専門員9名、療法士16名、管理栄養士1名、事務職員他17名、非常勤ヘルパー15名 合計200名 ※産休・育児休業5名、育児短時間勤務2名

○2017年度職員異動状況

採用：39名（看護職員 3名、介護職員 20名、相談職員 5名、療法士 3名、事務職員他 8名）

退職：35名（看護職員 5名、介護職員 17名、相談職員 2名、事務職員他 11名）

転入：11名（看護職員 4名、介護職員 4名、相談職員 2名、事務職員 1名）

転出：2名（相談職員 2名）

4. 研修参加・実施状況

○済仁会グループ本部主催研修会：延41名参加 ○済仁会グループ研究発表会：5演題発表、54名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延60名参加

○北海道老人保健施設大会：2演題発表、7名参加 ○全国老人保健施設大会：3演題発表、4名参加

○第48回北海道作業療法学会：1演題発表、1名参加

○外部研修：「認知症実践者及びリーダー研修」4名参加、「北海道抑制廃止研究会」1名参加、「高齢者虐待防止研修会」6名参加、「社会福祉施設等防火・救命実務研修会」6名参加、「北海道抑制廃止研究会」1名参加、他、多数の研修会に延153名が参加

○内部研修（全体研修）：「防災研修会」42名参加、「自動車事故防止セミナー」52名参加、「感染予防研修会」39名参加、「接遇研修会」2回で63名参加、「ノロ発生時対応研修会」5回開催し白石ブロック全職員が参加、「感染症予防のための手洗い研修」175名が参加、「職場のパワーハラスメントを考える研修会」68名参加、他

○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び伝達講習会を多数実施した。

2017年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

目 標

実 績

延入所者数 35, 405 人 33, 908 人

一日平均入所者数 97.0 人 92.9 人

入所待機者 6 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 2.8 (短期療養除く)

協力医療機関 : 1. 札幌西円山病院

2. 白石中央病院

3. 札幌ひばりが丘病院

4. 東札幌病院

【通所リハビリテーション：定員50名】

目 標

実 績

延利用者数 10, 068 人 9, 939 人

一日平均利用者数 41.1 人 40.6 人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.1 (要支援1・2を除く)

【短期入所生活介護：定員19名】

目 標

実 績

延入所者数 5, 947 人 6, 103 人

一日平均入所者数 16.2人 16.7人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.6 (要支援1・2を除く)

【訪問介護】

| | 目 標 | 実 績 |
|-------------------------|---------------|--------------------------------|
| 延派遣回数 (介護保険) (介護保険外) | <u>8,729回</u> | <u>8,471回</u> <u>1,434回</u> |
| 一日平均利用回数 (介護保険) | <u>28.3回</u> | <u>27.4回</u> |

要介護度状況 : 平均要介護度 1.5 (要支援1・2を除く)

【訪問リハビリテーション】

| | 目 標 | 実 績 |
|-------------------------|-------------|--------------------------|
| 延派遣回数 (介護保険) (介護保険外) | <u>740回</u> | <u>913回</u> <u>0回</u> |
| 一日平均利用回数 (介護保険) | <u>2.0回</u> | <u>3.7回</u> |

要介護度状況 : 平均要介護度 3.5 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|-------------------|---------------|-----------------------------|
| 延作成件数 (うち介護予防) | <u>2,164件</u> | <u>2,170件</u> <u>97件</u> |
| 要介護度状況 : 平均要介護度 | <u>1.9</u> | (要支援1・2を除く) |

【第1地域包括支援センター】

延相談件数 649 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：449 件 権利擁護：7 件 高齢者虐待：0 件
介護予防：41 件 その他の保健福祉サービス：13 件
認知症に関すること：51 件 消費者被害に関すること：4 件
住まいに関すること：38 件 心身の健康に関すること：7 件
家族の疾病・障がいに関すること：29 件 その他：113 件

会議開催、参加等

| | 主 催 | 参 加 |
|--------------|-------------|-------------|
| 個別地域ケア会議 | <u>11</u> 回 | <u>0</u> 回 |
| 個別地域ケア会議の準備会 | <u>11</u> 回 | <u>0</u> 回 |
| 地区地域ケア会議 | <u>2</u> 回 | <u>0</u> 回 |
| 地区連絡会議 | <u>24</u> 回 | <u>0</u> 回 |
| 区地域ケア推進会議 | <u>2</u> 回 | <u>0</u> 回 |
| 区連絡会議 | <u>0</u> 回 | <u>0</u> 回 |
| その他のケース検討会議 | <u>7</u> 回 | <u>10</u> 回 |
| 運営推進会議等 | <u>0</u> 回 | <u>85</u> 回 |
| 地区組織との連携 | <u>3</u> 回 | <u>23</u> 回 |
| 医療機関との連携 | <u>8</u> 回 | <u>1</u> 回 |
| その他関係機関との連携 | <u>57</u> 回 | <u>38</u> 回 |

新予防給付の入手とプラン作成件数

| | 入手数 | 直営プラン | 再委託 |
|-----|--------------|--------------|--------------|
| 要支援 | <u>983</u> 件 | <u>462</u> 件 | <u>176</u> 件 |

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 687 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：540 件 介護予防：20 件 権利擁護：21 件
その他の保健福祉サービス：27 件 消費者被害に関すること：1 件
認知症に関すること：89 件 住まいに関すること：42 件
心身の健康に関すること：40 件 高齢者の虐待に関すること：3 件
家族の疾病・障がいに関すること：3 件 その他：92 件

会議開催、参加等

| | 主 催 | 参 加 |
|------------------|------|-----|
| 個別地域ケア会議 | 15回 | 0回 |
| 個別地域ケア会議の準備会 | 7回 | 0回 |
| 地区地域ケア会議 | 2回 | 0回 |
| 地区連絡会議 | 2回 | 0回 |
| 区地域ケア推進会議 | 2回 | 0回 |
| 区連絡会議 | 6回 | 0回 |
| その他のケース検討会議 | 6回 | 0回 |
| 運営推進会議等 | 0回 | 57回 |
| 地区組織との連携 | 27回 | 67回 |
| 医療機関との連携 | 4回 | 1回 |
| 介護支援専門員連絡協議会 | | 5回 |
| 生活支援コーディネーターとの連携 | | 2回 |
| その他関係機関との連携 | 140回 | 61回 |

新予防給付の入手とプラン作成件数

| | 入手数 | 直営プラン | 再委託 |
|-----|------|-------|------|
| 要支援 | 953件 | 563件 | 109件 |

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 50件

相談内容（重複有）

介護保険制度：27件 権利擁護：0件 高齢者虐待：0件
 介護予防：17件 その他：23件

介護予防啓発普及事業実施件数

| | 実施回数 | 参加者数 |
|---------|------|------|
| すこやか倶楽部 | 47回 | 642人 |
| 介護予防教室 | 0回 | 0人 |
| 転倒予防教室 | 0回 | 0人 |
| 認知症予防教室 | 0回 | 0人 |
| 研修会・講演会 | 1回 | 75人 |
| その他 | 6回 | 292人 |

2017年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------|----------|
| 延入所者数 | 6, 463 人 | 6, 308 人 |
| 一日平均入所者数 | 17.7 人 | 17.3 人 |
| 入所待機者 | 28 人 (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.3 | |
| 協力医療機関 : | 1. よつばクリニック | |
| | 2. 札幌歯科口腔外科クリニック | |
| | 3. | |

【通所介護：一般型50名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------------|-----------|
| 延利用者数 | 12, 517 人 | 11, 529 人 |
| 一日平均利用者数 | 40.5 人 | 37.3 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く) | |

2017年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 入所（短期含む）は、在宅復帰を中心として取り組んだため稼働率が低下したが、空床をショートステイで無駄なく稼働させることで平均87.1人と目標に近い数字を上げられた。特に6月から9月までは在宅強化型要件を満たすことができ、その他の期間についても3ヶ月を除き在宅復帰加算の算定を継続できた。
- 通所リハは、これまで順調に利用者が増加していたが、職員確保に苦慮していることから9月より土曜営業を中止。土曜日のご利用者を平日に割り振ったが、利用曜日パターンの幅が狭まることや欠席者により思うように利用回数を維持できず、延利用率が減少した。
- 訪問リハは、前年より平均利用回数は低下し8.5人／日となったが在宅復帰後のサポートとして重要な役割を担っている。
- 訪問介護は、上記同様に在宅復帰後のサポートとしてサービス提供することができ、目標に近い数値を上げることができた。
- 居宅支援は、前年からの好調を維持し新規利用者37件、支援件数も目標を大きく上回る実績を上げられている。
- 在宅復帰に取り組み2年が経過し、冬期間の利用や農業・漁業等の繁忙期間の利用等、在宅生活と入所生活を繰り返し利用して頂けるケースが増えてきている。退所による空床も余儀なくされるが、在宅復帰したご利用者家族のレスパイトとしてのショートステイ需要も高く、稼働率が極端に低下することを防いでくれた。しかしながら入退所回転が高くなることで、待機者の低減や通所利用者のショート利用欠席等の状況も現れ、また業務においても様々な労力が必要となり、不足がちな職員にさらなる負担がかかる。
- 経営的には、在宅復帰による評価報酬で高い収益力を確保でき、法人に対しても大きく貢献できた。
- 人事面においては、看護師・介護員について退職後の補充が進まなく、慢性的に人手不足が続いている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 介護職員不足を補うために、道老健協の指定を受け北海道の助成事業として介護助手制度事業に参加。50～70代の年齢層11名を非常勤職員として採用。事業期間は11月～2月までであったが終了後も全員について雇用継続を双方が合意し、介護職員の負担軽減に繋げられた。
- 2018年4月に開設20周年を迎えるにあたり、プロジェクトを発足し施設内外へPRできるようイベント企画を開始した。
- 実習生は療法士養成学校から5名延べ9日間受入を行った。また、八雲高校の一日看護体験、インターナシップ、八雲・落部・野田生中学校からの職業体験学習で48名の生徒を受入れた。
- 利用者の希望を叶える取り組みとして、外食レク、買い物レク、釣りレク、カラオケBOXレク等を行った。
- 職員親睦活動として、親交会総会・懇親会、夏祭り反省会、忘年会を開催、その他、ビアガーデン、町民バレー・ボール大会、渓仁会ソフトボール大会等に参加し職員間の親睦交流を図った。

<今後の展開>

- 高い在宅復帰指標を維持し有効な加算についても取得していく。また、低迷した通所利用者数を再度増加できるように取り組む。
- 4～5月にノロウイルス集団感染が発生していることから、標準予防策の再認識などを研修を行って感染に対する対応力強化を図る。
- 苦情は7件と前年同様に多く、主に職員の不注意や説明不足、ぞんざいな対応等が原因であったため接遇教育が必要である。
- 骨折等を伴う事故が9件あり、大きな怪我に繋がらせない取り組みが必要である。
- 地域貢献活動の一環として、介護予防サロンの開設・運営に取り組む。
- キャリアアップ助成や人材紹介制度等を活用およびPRし職員確保に繋げる。また、業務負担が軽減されるような有効な介護機器や設備等を導入して行きたい。
- 地域包括ケアシステムの中心的な役割を担うため、安定した運営基盤を確保するとともに地域に根差した施設づくりをすすめる。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

医師：1名、看護職員15名（内非常勤2名）、介護職員（介護助手含む）57名（内非常勤14名）、療法士9名（内非常勤3名）

管理栄養士2名、介護支援専門員3名、相談職員3名、事務職員他11名（内非常勤7名） 合計101名（常勤75名、非常勤26名）

○2018年度職員異動状況

採用：22名（看護職員3名、介護職員5名、介護助手10名、療法士1名、相談職員1名、事務職員1名、運転職員1名）

退職：13名（看護職員4名、介護職員5名、介護助手3名、療法士1名）

○離職は、自己都合退職9名、期間満了4名で、離職率は10.3%

4. 研修参加・実施状況

- 内部研修：接遇マナー研修、感染症対策研修、虐待防止研修、アガーマネジメント研修等 合計 8回延236名参加
- 外部研修（法人内）：中堅管理職講座、中堅役職者研修、リハビリ合同研修会、ハラスマント防止研修会等 合計11回延 16名参加
- 外部研修（法人外）：抑制廃止研修会、介護福祉士実習指導者養成研修、認知症介護実践研修等 合計37回延 48名参加
- テレビ会議システムによる研修：ケアマネ受験対策講座、介護福祉士受験対策講座等 合計11回延 13名参加

2017年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

目 標

実 績

延入所者数 31,938人 31,789人

一日平均入所者数 87.5人 87.1人

入所待機者 5人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 3.2 (短期療養除く)

協力医療機関 : 1. 八雲総合病院

2. ヤクモ歯科クリニック

3.

【通所リハビリテーション：定員55名】

(2017年8月まで定員45名で月から土まで営業)

(2018年9月から定員55名で月から金まで営業)

目 標

実 績

延利用者数 8,807人 8,246人

一日平均利用者数 31.8人 29.8人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.1 (要支援1・2を除く)

【訪問リハビリテーション】

| | 目 標 | 実 績 |
|-----------------|----------|-------------|
| 延利用者数 | 2, 205 人 | 2, 160 人 |
| 一日平均利用者数 | 9.0 人 | 8.5 人 |
| 要介護度状況 : 平均要介護度 | 2.6 | (要支援1・2を除く) |

【訪問介護】

| | 目 標 | 実 績 |
|-----------------|----------|-------------|
| 延派遣回数 (介護保険) | 2, 470 回 | 2, 220 回 |
| (介護保険外) | | 158 回 |
| 一日平均利用回数 (介護保険) | 8.0 回 | 7.7 回 |
| 要介護度状況 : 平均要介護度 | 2.1 | (要支援1・2を除く) |

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|-----------------|----------|-------------|
| 延作成件数 | 1, 080 件 | 1, 234 件 |
| (うち介護予防) | | 204 件 |
| 要介護度状況 : 平均要介護度 | 2.1 | (要支援1・2を除く) |

2017年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

- ・2017年度入所（短期療養含む）の1日平均入所者数は、78.9人で目標値をほぼ達成（-0.1）。
- 内訳 入所者：在宅16人、施設 3人、病院21人、合計40人（平均介護度 2.53）
退所者：在宅 3人、施設 1人、入院21人、死亡13人（内看取り10人）、合計38人
- ・通所リハビリの1日平均利用者数 53.4人 目標値を1.4人上回った。
- ・通所介護の1日平均利用者数 18.4人 目標値に1.6人及ばなかった。
- ・訪問介護の1日平均利用回数 48.7回 目標値に0.3回及ばなかった。
- ・施設内の感染対策では、ドライミストによる湿度管理及び次亜塩素酸による全トイレ回り1日2回の消毒と施設内消毒を継続して実施した結果、ノロウィルス及びインフルエンザの罹患者はいませんでした。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・引き続き「経営改善プロジェクト計画」を策定することにより、年度当初に目標を設定し、進捗状況を確認しながら、毎月開催の施設運営会議において実施状況の成果を報告するなどして、その進行管理に努めた。

<成果>

- ・各部署において本計画の目標を達成するために業務改善に取り組んだ結果、経常利益においては、予算に対して1,700万円を超える利益を計上する結果となり、健全な経営を維持することができたと評価している。

<今後>

- ・継続して、利用者様に信頼されるよう質の高いサービスが提供できる体制を確保する。
- ・介護報酬改定に柔軟に対応しながら、更に安定した施設経営が継続して行えるように取り組む。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

- (CH美唄) 医師1名、看護職員12名（内非常勤2名）、介護職員53名（内非常勤18名）、管理栄養士1名、相談職員3名、事務・施設管理職員6名、療法士7名、清掃・運転職員12名（全て非常勤）、合計95名（内非常勤32名）
(すまいる) 介護支援専門員5名、訪問介護員25名、看護職員2名、介護職員5名、事務・運転職員等8名、合計45名

○2017年度職員異動状況

- (CH美唄) 看護職員⇒採用1名、退職1名 療法士⇒採用1名、退職0名
事務・施設管理職員⇒採用1名、退職0名 介護職員⇒採用6名、退職6名
相談職員⇒採用1名、異動1名
(すまいる) 介護職員⇒採用0名、退職1名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

(CH美唄)

- ・実施回数：29回、延50名参加。人材育成の為、積極的な研修受講を促した。
- ・主な研修名称：溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、道社協主催研修会、他施設内研修も随時実施しており、日常業務の研鑽に取り組んだ。

(すまいる)

- ・その他の集合研修：延14名（通所 3名、居宅 9名、経管 1名、訪介 1名）
- ・職員対象の内部研修：延364名（通所 30名、居宅 28名、経管 6名、訪介 300名）
- ・訪問介護事業所内研修：1回/月
- ・通所介護事業所内研修：1回/2ヶ月
- ・居宅介護支援事業所内研修：1回/2ヶ月

○2018年度は、3事業所の合同研修会を積極的に設けて、研修の更なる充実を図る予定である。

2017年度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------------|---------|
| 延入所者数 | 28,835人 | 28,795人 |
| 一日平均入所者数 | 79.0人 | 78.9人 |
| 入所待機者 | 15人 (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.6 (短期療養除く) | |
| 協力医療機関 : | 1. 市立美唄病院 2. 宝崎歯科分院 | |

【通所リハビリテーション：定員65名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------------------|---------|
| 延利用者数 | 12,740人 | 13,080人 |
| 一日平均利用者数 | 52.0人 | 53.4人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く) | |

2017年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センター すまいる

【通所介護：一般型30名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------|-----------|
| 延利用者数 | 5, 140 人 | 5, 077 人 |
| 一日平均利用者数 | 20.0 人 | 18.4 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 1.4 | (総合事業を除く) |

【訪問介護】

| | 目 標 | 実 績 |
|-----------------|------------|-----------|
| 延派遣回数 (介護保険) | 15, 220 人 | 16, 644 人 |
| (介護保険外) | | 4, 557 人 |
| 一日平均利用回数 (介護保険) | 49.0 人 | 48.7 人 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 1.6 | (総合事業を除く) |

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|------------|-----------|
| 延作成件数 | 1, 956 件 | 1, 689 件 |
| (うち介護予防) | | 464 件 |
| 要介護度状況 : | 平均要介護度 1.9 | (総合事業を除く) |

【福祉入浴】(自主事業)

| | |
|----------|----------|
| 延利用者数 | 2, 539 人 |
| 一日平均利用者数 | 16.5 人 |

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 (L S A)】(受託事業)

| | |
|-------------------|--------------------------|
| 対応件数 | 3, 973 件 |
| (安否確認 : 3, 702 件) | 相談連絡 : 221 件 健康異変 : 25 件 |
| ガス漏れ警報器 : 5 件 | 非常呼出 : 19 件 その他 : 1 件) |

2017年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

- 介護老人保健施設は、一日平均入所者数 100名の目標は達成する事ができなかった。原因としては、週末に入院等で退所になると次の入所調整が即時にできない事や風邪等が流行した際に立て続いで退所者がでた際の調整に時間が掛かった事があげられる。平均介護度については、介護度の高い利用者は岩内ふれ愛の郷へ入所を案内する等を行っていることで下降傾向にあるが、現在、区分変更を行い介護度の適正化を図る事で介護度が上がってきている。今後も適時、介護度の見直しを図る予定。
- 通所リハビリテーションは、延利用者数、一日平均利用者数ともに年間目標を達成することはできなかった。その一方で延利用者数の関係で2018年度は大規模型通所リハビリテーションⅠの基本報酬となり、報酬単価が上がることとなるしかし今回の報酬改定で全体的な基本報酬が下がる。今後は通所リハビリテーションマネジメント加算を中心に積極的に加算取得に取り組んでいきたい。
- 訪問看護の介護保険、医療保険共に延派遣回数、一日平均利用者数の目標を達成することができなかった。
地域で訪問リハビリの要望が多くある事から派遣回数増に向けて新たにセラピストの配置を行った。
- 居宅介護支援は、延利用者数の目標を達成することができた。
岩内町内の居宅介護支援事業所の閉鎖に伴い、その利用者を新たに担当することで利用者数増が見込まれる。
- 地域包括支援センターは、介護予防事業の継続に加え、地域ケア会議への活動や地域での新たな取り組み（はつらつ元気塾等）に積極的に活動することができた。
- 事業所内保育所があることにより保育所利用を希望する採用応募者が増え、雇用の機会も同様に増なっている。子育て中の女性職員の働きやすい環境がいかに必要か伺える。また、利用満足度の向上の取り組みとして懇談会の開催等を行っている。
- 職員の送迎を実施し、地域での人材の確保の機会も増えている。
- 酒井施設長を中心とした診療体制がより充実している。特定疾患療養費加算やターミナル加算も算定する事ができた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○昨年同様、コミュニティホーム岩内の各部署長（役職者）をはじめとして在宅部門事業の管理者が経営改善に向けて、岩内コミュニティの丘運営会議を執り行っている。経営、施設運営に関するより積極的な議論が展開されている。

<成果>

○指揮命令系統を明確化することで、速やかに課題解決に向けて取り組むことが可能となった。また、その取り組みについて岩内コミュニティの丘運営会議で情報共有することで透明性の保持や可視化ができるようになった。人事異動に伴い新しい体制で2018年度が始まった部署も目標を持ち、それぞれの課題に取り組んだ。

<今後の展開>

○2017年度は、岩内コミュニティの丘運営会議を最高決定機関とし、介護老人保健施設事業・在宅事業の合同会議体が岩内コミュニティの丘の課題について取り組み、また、情報の共有化を図った。委員会体制等も一体的に運営を行うことで岩内の組織体制をより堅持できている。また、地域に貢献する活動を継続し、運営の充実を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況 *有資格者の定数配置はできている。

| | | | | | |
|------------|------|-----------|----------|-----------|----------|
| ・医 師 : | 1名 | (正職員 0名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 0名 | 嘱託職員 1名) |
| ・理学療法士 : | 9名 | (正職員 8名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 0名 | 嘱託職員 0名) |
| ・作業療法士 : | 2名 | (正職員 3名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 0名 | 嘱託職員 0名) |
| ・管理栄養士 : | 1名 | (正職員 1名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 0名 | 嘱託職員 0名) |
| ・栄 養 士 : | 1名 | (正職員 1名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 0名 | 嘱託職員 0名) |
| ・看 護 職 員 : | 22名 | (正職員 14名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 8名 | 嘱託職員 0名) |
| ・介 護 職 員 : | 83名 | (正職員 19名) | 契約職員 31名 | 非常勤職員 33名 | 嘱託職員 0名) |
| ・相 談 職 員 : | 9名 | (正職員 9名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 0名 | 嘱託職員 0名) |
| ・事 務 職 員 : | 8名 | (正職員 4名) | 契約職員 1名 | 非常勤職員 3名 | 嘱託職員 0名) |
| ・運 転 職 員 : | 7名 | (正職員 0名) | 契約職員 0名 | 非常勤職員 7名 | 嘱託職員 0名) |
| ・合 計 : | 149名 | (正職員 60名) | 契約職員 33名 | 非常勤職員 53名 | 嘱託職員 3名) |

4. 研修参加・実施状況

| | | | |
|-----------------|-----|----------------|----|
| ○新入職員研修 | 6名 | ○ 実務者研修 | 3名 |
| ○虐待防止研修 | 2名 | ○ 溪仁会グループ研究発表会 | 1名 |
| ○普通救命講習Ⅰ（AED研修） | 1名 | ○ 後志感染管理研修 | 4名 |
| ○アンガーマネジメント研修 | 45名 | ○ 北海道老人保健施設大会 | 4名 |

2017年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|---------------------|------------------|
| 延入所者数 | <u>36, 500 人</u> | <u>36, 252 人</u> |
| 一日平均入所者数 | <u>100. 0 人</u> | <u>99. 3 人</u> |
| 入所待機者 | <u>8 人</u> (3月末現在) | |
| 要介護度状況 : | <u>平均要介護度 2. 88</u> | |
| 協力医療機関 : | <u>1. 岩内協会病院</u> | |
| | <u>2. 済生会小樽病院</u> | |
| | <u>3. 中村歯科医院</u> | |

【通所リハビリテーション：定員50名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------|---------------------------------|-----------------|
| 延利用者数 | <u>10, 560 人</u> | <u>9, 441 人</u> |
| 一日平均利用者数 | <u>40. 0 人</u> | <u>35. 7 人</u> |
| 要介護度状況 : | <u>平均要介護度 1. 39</u> (要支援1・2を含む) | |

【地域包括支援センター】

延相談件数 197 件

相談内容（重複有）

| | | | |
|-------------|--------------|---------|-------------|
| 介護保険制度 : | <u>107</u> 件 | 代行申請 : | <u>41</u> 件 |
| 認知症 : | <u>6</u> 件 | 生活支援 : | <u>5</u> 件 |
| 権利擁護 : | <u>1</u> 件 | 高齢者虐待 : | <u>1</u> 件 |
| 介護予防・リハビリ : | <u>3</u> 件 | 入所 : | <u>5</u> 件 |
| その他 : | <u>28</u> 件 | | |

会議開催、参加等

| | 主 催 | 参 加 |
|-----------|-------------|-------------|
| 運営会議 | <u>0</u> 回 | <u>12</u> 回 |
| 二次予防会議 | <u>0</u> 回 | <u>11</u> 回 |
| センター内会議 | <u>12</u> 回 | <u>13</u> 回 |
| 個別ケース会議 | <u>2</u> 回 | <u>2</u> 回 |
| 虐待対応会議 | <u>0</u> 回 | <u>17</u> 回 |
| 居宅・包括連絡会議 | <u>2</u> 回 | <u>2</u> 回 |
| 地区組織関係会議 | <u>0</u> 回 | <u>29</u> 回 |

新予防給付の入手とプラン作成件数

| | 入手数 | 直営プラン | 委託 |
|------------------|-------------|----------------|------------|
| 要支援（予防給付） | <u>37</u> 件 | <u>1,211</u> 件 | <u>1</u> 件 |
| 予防ケアマネジメント（総合事業） | | | |
| | 入手数 | 直営プラン | |
| | <u>29</u> 件 | <u>489</u> 件 | |

【訪問看護】

| | 目 標 | 実 績 |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 延派遣回数 (うち介護保険外) | 4, 165 回 490 回 | 3, 411 回 582 回 |
| 一日平均利用者数 | 13.9 人 | 12.6 人 |

要介護度状況 : 平均要介護度 1.56 (要支援1・2を含む)

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------------------------------|-------|--------------|
| 延作成件数 (うち介護予防) | 300 件 | 309 件 0 件 |
| 要介護度状況 : 平均要介護度 1.57 (要支援1・2を除く) | | |

2017年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護> 1年間を通して目標に近い数値で推移し、加算においては個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱとともに90%以上の算定率を維持できた。人員においては人員基準違反までには至らないものの、退職者が続いたことにより年間通して厳しい状況が続いていたため、人員確保は今後も必要な課題にある。

<居宅介護支援>採用、退職と職員に変動があり、数値も1年間通して非常に厳しい結果となった。今後も新規利用者、既存利用者を確保し、目標を達成できるよう努めていくことが課題となる。

<障害相談支援>職員体制の変更に伴い、南後志地区（寿都、島牧）のご利用者様を小樽市相談支援事業所へ移管させていただき、市内（中央区）を対象にした計画作成、10月からは障害児の指定を受け、障害者・児の計画作成相談をおこなっていった。数値としては非常に厳しい状況にあったため、今後も新規利用者の確保、他機関との連携に努めていくことが課題となる。

<今後の展開> 2018年度においては、介護・障害の報酬改定に伴い厳しい状況になると予想されるが、加算算定率の維持、新たな加算の取得、新規利用者の確保に努めていくことが重要とされる。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○毎月1回：通所介護事業所運営会議：業務の効率化、経営改善にむけて検討をおこなった。

参加者：役職者、リーダー職員、看護職員

○毎週1回：居宅介護支援事業所会議：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。

参加者：介護支援専門員全職員

<成果>

○通所介護事業で抱えていた問題点等を改善することができ、業務の効率化をはかっていくことができた。

○情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者にたいしての早期対応、また、業務の効率化を図っていくことができた。

<今後の展開>

○コスト意識を強めながら、少ない費用で収益を確保できるよう努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2018年3月31日職員状況

・管 理 者： 1名（通所介護管理者、介護支援専門員、相談支援専門員兼務）
・生 活 相 談 員： 2名
・介 護 支 援 専 門 員： 4名
・相 談 支 援 専 門 員： 1名
・看 護 職 員： 5名（内非常勤2名、派遣1名）
・言 語 聽 覚 士： 1名
・作 業 療 法 士： 1名（非常勤）
・介 護 職 員： 20名（内非常勤6名）
・事 務 職 員： 1名
・運 転 職 員： 6名（非常勤）
・清 掃 職 員： 1名（非常勤）
・合 計： 43名（内非常勤16名）

○2017年度 採用・退職者状況（出向者含む）

採用： 9名（相談支援専門員1名、介護支援専門員1名、看護職員2名、介護職員1名、運転職員5名）

退職： 16名（管理者兼生活相談員1名、介護職員4名、看護職員4名、介護支援専門員2名、運転職員4名、出向1名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：新人職員研修、認知症を支える地域連携の実践研修、職員合同研修会、防火管理者研修、介護家族支援研修、

札幌市ケアマネジメント能力向上研修、中央区ケアマネジメント能力向上研修、コミュニケーション研修、

高齢者の権利擁護を考える集い、札幌市介護支援専門員連絡協議会 ケアマネ資質向上研修会、安全運転管理者講習

○内部研修：CSR研修、業務内容勉強会

2017年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型 75名】

| | 目 標 | 実 績 |
|----------------|------------------|------------------|
| 延利用者数 (一般型) | <u>20, 998</u> 人 | <u>20, 052</u> 人 |
| 一日平均利用者数 (一般型) | <u>67.3</u> 人 | <u>64.4</u> 人 |

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1.9 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

| | 目 標 | 実 績 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 延作成件数 | <u>1, 641</u> 件 | <u>1, 561</u> 件 |
| (うち介護予防) | | <u>120</u> 件 |
| 要介護度状況 : 平均要介護度 | <u>1.71</u> | (要支援1・2を除く) |

【障がい者相談支援】

◇指定相談支援事業 (サービス利用計画)

| | | |
|---------|-------------|--------------------|
| 新規計画 | <u>13</u> 件 | (内年度内終了者 0 件) |
| モニタリング | <u>45</u> 件 | |
| 新規登録者 | <u>13</u> 名 | 登録抹消者 <u>0</u> 名 |
| 年度末登録者数 | <u>18</u> 名 | (内 障害児 <u>5</u> 名) |

2017年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

<経営改善>人・物・金の基本となる資源の運用について、不十分ではあるが常に具体的な目標を確認し改革に取り組んだ。また、定例の運営会議の他、各事業所長と事業別会議を毎月開催し、本部、センター長、所長間で経営方針と運営方針について意思統一を図った。経営視点と実務の落としどころが十分に共有できない状況もあったが、今後も話し合いと業務改善を継続する必要がある。経費において事業所間の偏りを見直した。

<居宅介護支援>5月にこころ円山から1名の異動があり、以降5名体制となり、その後も人員体制は安定している。未経験者や経験年数の浅い職員がいるため、適正な件数を担当できるように取り組む必要がある。

<訪問看護>育児休業や怪我等により、人員が揃わない時期もあったが、職員採用と法人からのフォローワーク体制により事業運営することができた。

2018年度は、介護保険改定により、同じ利用者に訪問看護とリハバリの一体的な訪問が必要となり、看護師の訪問件数も増加するため、1日3、5件以上の訪問を目標に取り組む。

<小規模>2月で登録者数29名、宿泊2~4名/日という状態となった。

常に職員体制がギリギリの状況で、非常勤職員の有効活用・採用条件の見直しが必要となる。

正職員率が高く収益が十分に出ていない状況のため、サテライト展開による正職員の配置分散を検討する。

<通所介護>2月から定員50名とし定員に応じた職員数にすることで人件費の縮減を図った。

限られた人員で最大限の効果が出るように自立支援と個別機能訓練Ⅱの全員取得体制を確立する。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○青葉ハーティケアセンター運営会議・・・各事業所より運営状況及び改善状況の報告。

参加者：各所長・事務副主任 開催日：毎月第3金曜日開催

○青葉ハーティケアセンター事業別会議・・通所介護・訪問看護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護の経営実務まで掘り下げた内容について話し合う。(2017年度より実施) 参加者：各事業所長・役職者・主務者

○各事業体会議、主務者会議(DSの職種代表参加)

<成果>

○事業別会議は、実務レベルの話が出来た。また、本部職員の参加により、確認事項ではなく決定事項として早期対応解決に繋がった。

<今後の展開>

○事業所間の連携を強化し医療機関からの受け入れ等、在宅のワンストップサービスの実現に向けた体制構築。

3. 職員状況(3月末現在)

○2018年3月31日職員状況

| | |
|------------------|------------------|
| ・管 理 者 : | 4名 |
| ・相 談 職 員 : | 1名 |
| ・介 護 支 援 専 門 員 : | 4名 |
| ・看 護 職 員 : | 11名 (内非常勤職員 5名) |
| ・介 護 職 員 : | 24名 (内非常勤職員 8名) |
| ・理 学 療 法 士 : | 2名 |
| ・作 業 療 法 士 : | 1名 |
| ・事 務 職 員 : | 1名 |
| ・運 転 職 員 : | 4名 (内非常勤職員 3名) |
| ・合 計 : | 53名 (内非常勤職員 16名) |

*各事業所とも人員の定数配置はできている。

4. 研修参加・実施状況

○研修・勉強会

ケアマネジメントに関する技術・北海道共生ケアネットワーク記念講演・札幌地域における小児及び若年障がい者の在宅看護・改めて小規模多機能の理解・認知症を支える地域連携の実践・訪問看護におけるフィジカルアセスメント・利用者に寄り添う接遇とは・KMS内部監査委員養成研修・青葉地区における介護予防・日常生活支援総合事業に求められる姿について・富山型デイサービスにぎやか阪井由佳子氏講演会、他多数。4事業所合同研修会も3回実施。

2017年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】（2018年2月から50名）

目 標

実 績

延利用者数（一般型） 15,620人 11,871人

一日平均利用者数（一般型） 50.3人 38.2人

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1.7 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

目 標

実 績

延作成件数 1,826件 1,707件

(うち介護予防) 170件

要介護度状況 : 1.5 (要支援1・2を除く)

【訪問看護】

目 標

実 績

延派遣回数 4,525回 4,182回

(うち介護保険外) 741回 818回

一日平均利用者数 18.4人 17.0人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.2 (要支援1・2を除く)

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員 29名（通い定員 18名、宿泊 6名）】

目 標

実 績

延登録者数 8, 726人 8, 822人

※延通い利用者数 3, 850人

※延宿泊数 296人

※延訪問数 4, 875人

一日平均登録者数 23.9人 24.8人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.87 (要支援1・2を除く)

2017年度 事業報告

法人本部

1. 各部・室・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（4月・6月・7月・10月・1月・3月）、評議員会（6月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・経理内部相互監査の実施（4施設）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（4月）
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月度速報及び確定財務諸表作成事務
- ・財務諸表等電子開示システム活用による行政等への申請（6月）
- ・各種会議への参加、他
- ・内閣府原子力規制・防災対策事業（放射線防護対策事業）の施行（コミュニティホーム岩内）
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人による会計監査の実施
- ・監事監査の実施（5月・7月・10月・1月・3月）

【情報システム課】

- ・ICTロードマップ（2017年度～2021年度）の則り推進
- ・LM-Wincareへの更新を2017年度内において完了
- ・人事・給与・財務システムの更新を2017年11月より実施（選定業者株式会社ミロク情報サービス）
(財務における速報を廃止し、事務負担を軽減)
- ・西円山敬樹園とコミュニティホーム白石の2施設の介護支援システムWINCAREのタブレット導入の支援
- ・コミュニティホーム白石のコミュニケーションロボット「ロボコネクト」(NTT社)導入における支援

【購買担当】

- ・電力購入業者の変更 平成29年10月1日～
○エフパワー（基本料金削減年額3,500千円）から北海道電力（基本料金削減年額8,070千円）に変更
- ・複合機契約先をリコージャパンに統一
○年間削減額3,050千円
- ・消防設備点検委託業者を統一
○年間削減額1,200千円（点検結果を本部で集約し消防法規制の遵守管理を行う）

●人事部

- ・人事検討会議の開催（毎月開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・「みんなのKAGOフェスタ in びばい」の開催支援
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障がい者雇用の推進と理解の浸透
- ・外国人技能実習生の受入支援

【総務担当】【総務課】

- ・総務内部相互監査の実施（5施設）
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・電源地域補助金の審査依頼・請求等の支援（岩内ふれ愛の郷）
- ・キャリアアップ助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・法人本部主催のテーマ別研修会の開催 (12回: 参加者 延べ 491名)
 - 衛生管理研修会の開催 (1回: 参加者 27名)
 - 介護技術研修会の開催 (全4回: 参加者 延べ 181名)
 - 認知症研修会の開催 (1回: 参加者 56名)
 - 報酬改定研修会の開催 (1回: 参加者 82名)
- ・新入職員研修の開催 (2回: 参加者 延べ 31名)
- ・新入職員フォローアップ研修の開催 (2回: 参加者 延べ 17名)
- ・医療的ケア基礎講座の開催の開催 (全6回: 参加者 延べ 118名)
- ・中堅管理職講座の開催 (全7回: 参加者 延べ 118名)
- ・介護支援専門員受験対策講座の開催 (全4回: 参加者 延べ 93名)
- ・介護福祉士受験対策講座の開催 (全5回: 参加者 延べ 54名)
- ・認知症学習会の開催 (全10回: 参加者 延べ 137名)
- ・認知症サポートー養成講座を渓仁会研究発表会で開催 (全3回: 参加者 延べ 43名)
- ・各施設・事業所の要請に応じた研修会の支援 (全5回: 延べ 138名)
- ・テレビ会議システムによる研修会・各種講座の支援 (テレビ会議受講者: 延べ 211名)
- ・研修講師調整支援: 年間 15 件
- ・ストレスチェック実施支援: 受検者 73.8%、高ストレス者平均 15.3%

●事業推進部

【リハビリ担当】【リハビリ課】

- ・法人リハ全体会議 (11・1月)
- ・リハビリ課定例会議 (毎月)
- ・渓G P リハ責任者会議 (毎月)
- ・老健リハ会議 (6・2月)
- ・特養リハ会議 (7・2月)
- ・訪問系リハ会議 (2月)
- ・通所介護リハ会議 (9月)
- ・広報担当者会議 (4・5・6月)
- ・S T 合同会議 (6・2月)
- ・職員の各施設への訪問
(八雲11月、美唄毎月、岩内7・9・11・12月、手稲5・6・7月、月寒11~3月、あおば毎週)
- ・養成校の就職説明会参加 (5校)、養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施
- ・社) 渓仁会リハ部門合同研修会、懇親会 (11月)
- ・社) 渓仁会リハ部門札幌ブロック研究発表会 (3カ月・計3回)
- ・コミュニティホーム八雲研究発表会 (2カ月・計2回)
- ・法人内施設・事業所への講師派遣 (延べ4名、外部への講師派遣 (延べ14名))
- ・言語聴覚士派遣 (毎月): 月寒、きもべつ、手稲、菊水、るすつ、美唄、岩内、あおば
- ・作業療法士派遣 (毎週): 喜茂別町立クリニック、きもべつ、菊水、るすつ、デイサービスセンター白石の郷
- ・喜茂別町地域支援事業 (6・7・8・10・11・12月)
- ・渓仁会G P 人事交流研修・受け入れ: 8名 (9/5~7)
- ・S T 派遣マニュアル改定
- ・研究発表 (全国老健大会: 1演題、北海道作業療法学会: 1演題、渓仁会グループ研究発表会: 4演題)
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告によるリハビリ課の情報収集
- ・介護報酬のリハ関連加算取得の推進
- ・訪問リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、他
- ・次年度のリハビリ体制と人員計画の策定

【栄養管理担当】

- ・栄養管理者会議の開催（5月・10月）
 - 情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告、意見交換等）
 - 調理技術の自己評価の実施
 - 摂食・嚥下食の取り組み調査の実施
 - 栄養補助食品の統一価格（一部）での納入
- ・各事業所からの月報・取りまとめ
- ・勉強会の開催
 - 5月：高齢者の便失禁と血糖コントロールの関係について
 - 10月：とろみ調整食品と嚥下について
- ・渓仁会グループ栄養士の意見交換会（7月、3月）
- ・手稻つむぎの杜の栄養・食事サービス業務の遂行

【業務管理担当】【業務管理課】

- ・新規事業・既存事業計画等の支援
- ・監督官庁実地指導（監査）立会い（11事業所：介護予防含む）
- ・内部実地指導実施（11事業所：介護予防含む）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告218件）
- ・KMS推進支援（KMS会議）
- ・相談援助職支援（医療福祉介護連携会議）
- ・各事業・職種会議の企画支援
- ・各施設への業務支援
- ・コンプライアンス研修の開催
- ・リスクマネジメント研修の開催
- ・虐待防止研修の開催
- ・苦情対応に関する支援（第三者委員含む）
- ・法令遵守に関する支援

【地域支援事業推進課】

- ・4町村（喜茂別町、積丹町、ニセコ町、島牧村）遠隔健康支援事業
- ・喜茂別町民の生活改善支援事業
- ・喜茂別町民元気かるて管理事業
- ・喜茂別町認知症施策準備事業
- ・喜茂別町生活支援体制整備事業
- ・北海道ヘルスケア産業振興協議会事業協力
- ・留寿都高校農業福祉コース講師派遣
- ・喜茂別町立クリニック看護業務支援
- ・厚別区青葉地区における地域活動支援
- ・地域における公益的な取組に関する情報収集と共有化